

一

次の文章を読んで、後の一から十四までの各問いに答えなさい。
(ただし、字数指定のある問いは全て句読点・記号も一字とする。)

著作権上の都合により未掲載

著作権上の都合により未掲載

〔注〕 ＊アイデンティティー＝自分を他と区別し特徴付けるもの。独自性。

問一 ―線1「よほど動機づけがしつかりしていないと」とありますが、筆者は「動機」がしつかり根づくために必要なものは何だと考えていますか。答えとなる事柄を本文中からさがし、十字以内でぬき出しなさい。

問二 空らん「2」に入れるのに最も適当な言葉を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ただし イ やはり ウ しかし エ むしろ オ ところで

問三 ―線3「数学をやる意味が変えてしまったります」とありますが、ここで筆者が言いたいことは何ですか。それがわかる部分が含まれる一文を本文中からさがし、最初の五字をぬき出しなさい。

問四 ―線4「飽食の時代」とはここではどのような意味で用いられていますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物質的に豊かで、苦勞することを知らない時代。

イ 体験すべきことが多すぎて、うんざりする時代。

ウ 食べ物を粗末に扱い、感謝の気持ちを失った時代。

エ 人々が精神的に充実し、個性豊かに生きられる時代。

オ あらゆる可能性に満ち、人生目標が設定しにくい時代。

問五 ―線5「③は動機づけとしてはほとんど論外です」とありますが、それはなぜですか。冒頭に述べられている①から⑤の動機のうち③だけが異質であることに注目し、二十字以内で答えなさい。

問六 ―線6「答えを発見できずに」とありますが、「子どもたち」は何を発見できないのですか。十字以内で答えなさい。

問七 ―線7「本来はよいことなのですが」とありますが、④の動機づけに含まれる問題点として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 数学の問題を提示する時に教師が難問ばかりを選ぶ傾向にあるということ。

イ 数学はその奥深さに触れると誰もが圧倒されて学ぶ意欲を失ってしまうということ。

ウ 数学の問題は一間を解くのにかなりの時間がかかり疲れてしまうということ。

エ 数学はわかってしまうと面白みが半減してしまう底の浅い学問であるということ。

オ 数学のわかりにくい点を解消してくれる教師との出会いが少ないということ。

問八 ―線8「⑤はできる子どもに多く見られます」とありますが、⑤の動機づけの問題点はどのような点にありますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 数学における仲間への優越感が生き方のすべてを支配している点。

イ 数学をあくまでも人を見下す手段としてしまっている点。

ウ 数学が本来もっている楽しさとは無関係な喜びに執着する点。

エ ライバルがいないと勉強し続けていくことができない点。

オ 数学の問題を解き進めていく過程を軽視してしまう点。

問九 ―線9「苦勞の先にはく待つてゐるかもしれない」とありますが、「苦勞の先」にどのようなものを知つて感動するのですか。それを示す語句を本文中からさがし、六字でぬき出しなさい。

問十 ―線10「そうした教え方のできる教師」とは反対の教師の姿を批判を交えて表現している言葉を本文中からさがし、十二字でぬき出しなさい。

問十一 ―線11「肉体労働」を「数学」の勉強に当てはめた場合、どのようなことが「肉体労働」に当たりますか。本文中からさがし、十六字でぬき出しなさい。

問十二 空らん「12」に漢字を一字入れて慣用句を完成させなさい。

問十三 ―線13「アインシュタインの親戚」とはどのような人間を指していますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ア | 我田引水 | イ | 大器晩成 | ウ | 泰然自若 | エ | 天真爛漫 | オ | 傍若無人 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

問十四 ―A「キョウコ」・B「キ」・C「ムチュウ」を正しい漢字に直しなさい。

〔三〕 次の文章を読んで、後の一から十二までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いは全て句読点・記号も一字とする。)

著作権上の都合により未掲載

著作権上の都合により未掲載

〔注〕 ＊お父さんが呼びよんはるよ。早く来んね。 〓お父さんが呼んでいますよ。はやく行きなさい。

問一 ―線1「あのジュルジュルした食感、飛び散るヌメツとした種」とありますが、本文において後に「私」のトマトに対する気持ちに変化しています。トマトに対する気持ちに変化したことのわかる表現を含む一文を本文中からさがし、その最初の六字をぬき出さない。

問二 ―線2「サラダやスープの中に隠れていても」とありますが、この部分における表現上の特徴と同じ特徴を持っているものとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 厳しい鍛錬の末、鋼の肉体を手に入れる。

イ 高層ビルが林のように立ち並ぶ。

ウ 真夏の太陽の下で波が遊んでいる。

エ 相手の顔をあなが開くほど見つめる。

オ 高速道路が網の目のように張り巡らされる。

問三 ―線3「父との会話はもつと億劫だった」とありますが、

①「億劫」と同じ意味を表すことばを本文中からぬき出さない。

②「私」のここでの気持ちと対照的な「私」の気持ちを表現している箇所を本文中からさがし、十字でぬき出さない。

問四 空らん（4）に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 愚痴 イ 冗談 ウ 激励 エ 小言 オ 忠告

問五 ―線5「まばたきも惜しむような気持ち」とありますが、

①ここである「まばたき」を「惜しむ」とほぼ同じ意味を表す慣用表現を本文中からさがし、五字以上十字以内でぬき出さない。

②このような気持ちになったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 蟬の羽化を初めて見て、自然の不思議に心動かされるものがあつたから。

イ 父すら見たことのない蟬の羽化を見られることに、優越感をもったから。

ウ 小さな生命が助けを求めているように見え、応援したいと思ったから。

エ 今回の機会を逃したら二度と見ることができない、貴重な体験だと悟ったから。

オ せっかく父が教えてくれたことだから、細部まで見逃したくなかったから。

問六 ―線6「父は、口元に微笑を浮かべながら、タオルを私の首にそっとかけて」とありますが、この時の父の気持ちの説明

として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分自身が心を動かされた蟬の羽化を、食い入るように見つめている娘の姿をうれしく思っている。

イ 蟬の羽化を見せるという方法によって、娘の向学心を上手に引き出せ、自負心に満たされている。

ウ 難しい年頃の娘が蟬の羽化につられ、自分のほうへと歩み寄ってきたことを喜ばしく感じている。

エ 娘に人生のあるべき姿を教えようと蟬の羽化を見せたが、娘の反応がまずまずだったのでほっとしている。

オ 蟬の羽化を初めて見た興奮から娘を庭に呼んだが、娘のあまりの熱心さにどう対処しようか迷っている。

問七 ―線7「誰にも教わらなくても、要らんお世話だもんな」とありますが、この発言をしている時の父の心中を表現したものとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子供の成長を願う親は、その感情を表には出さないように心がけている。

イ 何事にも無関心な自分の娘のために、意図的に蟬の羽化に立ち合わせた。

ウ 思春期にある娘との関係を改善するには、余計な手出しをしてはならない。

エ 自分も手助けしたいという欲求をこらえて、娘の成長を見守っている。

オ 思春期の子の成長には、父との会話よりも自然に触れる体験の方が重要である。

問八 ―線8「私は、なんだか恥ずかしい気持ちになって」とありますが、「私」はなぜそのような気持ちになったのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 以前から嫌いであつたトマトを食べるというやせ我慢を、父に笑われたので。

イ 父を喜ばせようとしてトマトを食べたことを、父は気づいていると感じたので。

ウ 自分なりに予想していたほどには、父を驚かすことができなかったのだ。

エ トマトを食べるという些細なことに決心を必要とした自分を、滑稽に感じたのだ。

オ 現在にいたるまでの自分の食わず嫌いが、ひどく幼く感じられてきたのだ。

問九 ―線9「飴色の殻から抜け出そうとしている半透明の蟬の羽」とありますが、これは何をたとえたものだと考えられますか。本文中から二十字以内でさがし、最初の五字をぬき出しなさい。

問十 ―線10「真っ赤に熟れたトマト」とは、たとえばどのようなことを表していると考えられますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大人の「私」へと成長したことに対する達成感。

イ 父につらい思いをさせずにすんだことに対する安心感。

ウ 父と互いに心が通い合ったことに対する心地よさ。

エ 他の者の成長に手出しをしなかったことに対する満足感。

オ 微妙な思春期を通り過ぎたことに対する懐かしさ。

問十一 ―線11「父が言おうとして口に出さなかった事」とありますが、これはたとえばどのようなことであつたと考えられますか。最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父なりに理想とする「私」の将来の姿。

イ 娘の「私」に反抗されることへの限りない寂しさ。

ウ 表面的には穏やかに生きてきた父の生き方。

エ 自分が死んだ後の娘の将来に対する不安。

問十二 本文全体を三つの段落に分けるとすると、第二段落と第三段落はどこから始まりますか。それぞれ最初の五字をぬき出しなさい。